

藤倉山ブナ林保存会

団体紹介

藤倉山のブナ林は水無川を源泉として鶴岡市三瀬地区の生活用水や農業・漁業などに恵みを与えています。我々はブナ林の大切さを後世に引継ぐため、平成22年に活動を始めました。主な活動は春の開山祭、秋の閉山祭や登山道などの整備です。近年は「床止め」の学習会などを行いました。

活動地

鶴岡市三瀬地区

やまがた百名山

藤倉山

活動内容

「学習会などの開催に向けての環境整備」

実施日 令和3年5月8日(土)

危険木(枯れた巨木)の告知看板を
3人で設置した。

危険木の告知看板設置



危険木



「危険木の告知看板」設置を行っての感想

やまがた緑環境税を活用して危険木の告知看板を作成・設置することが出来ました。

やまがた百名山藤倉山の東側稜線には樹齢50年を越える赤松が20本近く育っていましたが、虫害の松枯れによって現在は約10本が立ち枯れ状態になっています。

その一部は風などで倒れる恐れもあり、また枝折れによる落下などの危険から、学習会の参加者や登山者の安全を守るために危険木の告知看板を作成・設置することを、豊かな森づくり活動に位置づけました。

危険木には赤テープを巻き、数カ所に告知看板を取り付けることが出来ました。

また、森林・自然・環境学習の森や自然とのふれあい活動の一環に、根本的対策としてこの危険木の伐採を学習会開催に向けた環境整備に掲げ、今年から数年かけて取り組んでいきたいと考えています。

今年の学習会はコロナ禍の関係で中止になりました、残念です。

「森林と床止めの働き」の学習会

活動内容

「森林と床止めの働き」の学習会開催

実施日 令和3年10月31日(日)

- ・藤倉山・水無川上流の「床止め」で6名が参加して学習会を行った。
- ・10月に2回開催地までの環境整備を行った。



学習会の為の環境整備



「森林と床止めの働き」の学習会を行っての感想

やまがた緑環境税を活用して、「森林と床止めの働き」についての学習会を10月31日(日)に行いました。

藤倉山の地形・地質を知り、先人が築いた「床止め」の果たしてきた砂防・治水の効果・役割を学び、豊かな森づくりを考えてみようという目的を持ち、現地での学習会を開きました。

山形大学農学部・菊池俊一先生を講師に迎えることができ、治山も専門としているということで、最適者のご講話を聴くことが出来ました。

藤倉山の水無川上流部に現在確認できる「床止め」は9基ありますが、学習会はそのうちの下部5基で行いました。

学習の内容は①床止めを構築する場所の選定②床止めの形状③石組の仕方、石の種類、石の形状④各床止めの果たしてきた現況・効果⑤藤倉山の地形⑥藤倉山・水無川の地質⑦床止めがない時代の下流域の様子⑧構築を必要とした地理的・社会的背景など。

これらの床止め群によって、河床の勾配が緩和され、土砂、岩石の流出や土石流を未然に防ぐなどの機能を果たしてきた事や藤倉山も森が守られ、下流域の里山の農林業、そして日本海の水産業がその恵みを受けていることなどを学ぶことが出来ました。この度の学習会は、コロナ禍で予定され、

また、衆議院の選挙・投票日と重なり、参加者は少なかったものの、先人の苦勞と知見を知り、森林環境保全の意識を高め合う良い機会を得たと思います。

なお、学習会の開催に向けて10月に2回、開催地までの沢(涸沢)を整備しました。